



昨年度より引き続き兵庫県阪南南県民センターの実施する大学生による地域連携推進機支援事業の採択を受け、「0歳～100歳が共に生きる〈のびのびタウン〉」事業に取り組んでいます。この事業の1つである「尼崎プロジェクト」では、家庭・学校・地域で伝承されなくなりつつある生活経験・生活伝承を地域の子どもたちに伝えていく活動を実施してきました。昨年度は、「お掃除」をテーマに(株)栄水化学とのワークショップやNPO法人「やんちゃんこ」、豊岡市立清滝小学校、尼崎市立杭瀬小学校、本学での子ども参加型のイベントを学生の企画で実施しました。

今年度も昨年度の実践を踏まえて、歴史・環境・子育て支援をテーマに地域の課

題を共有し、調査・研究したうえで、地域の活性化をめざすイベントの開催を予定しています。その一環として、8月5日(土)に開催された「みんなのサマーセミナー」にて園田北まちづくり協議会と連携して「猪名寺忍者学校」を実施しました。

忍者学校では、忍者服と折り紙手裏剣づくり、手裏剣投げの3つのプログラムを用意し、子供たちと一緒に活動しました。忍者服はポリ袋、手裏剣は折り紙と身近にある材料を使用し、手裏剣投げの的も簾を使用するなど参加者の生活の中にあるものを工夫して活用しました。

当日は、事前に申し込みのあった園田北小学校の児童と保護者のほか、「みんなのサマーセミナー」に参加している子どもと

保護者の飛び入り参加もありました。特に、当日の飛び入り参加は当初予想していた以上の来場があり、イベントは大盛況でした。会場では、周囲の大人が子供に折り紙手裏剣の折り方を教えたり、一緒になってポリ袋から忍者服を作ったりする光景が見られました。

また、イベントを企画、実施した学生たちにとっても、初めて自分たちの立てた企画を子どもや保護者に実践する経験を積めたことで、子どもや大人の実態などを把握できるよい機会になったのではないかと思います。今後も地域と共に地域の資源を見出し、それを活用することで地域課題を解決していくことができるよう、取り組みをすすめる予定です。



こんにちは！つなGirl3回生のゆーちゃんです！毎年けやき祭と同時開催の、つなGirl主催「キッズフェスティバル」についてお知らせします♪

キッズフェスティバルの目標は、尼崎市内で活動している様々な方に、今まで関わったことのない人とつながってもらえることです。

昨年度は241名の参加者を受け付けました。乳幼児や小学校低学年の児童を中心に、用意していたマップやシールが無くなるほど参加してくれました！ブース終了時間ギリギリまで遊んでいる子や、親子揃って笑顔で楽しんでくれている様子も多く見られ、私たちも幸せな気持ちになりました！

今年は、尼崎に住む「あまっこ」に、あまがさきのあなば(あまば)のような空間を感じてもらい、自分の住むまちについて興味を持つきっかけとなることを目的に行います。

学内の学科・クラブや学外の地域の方々から13ブース出展されます。風船でお花や動物を作る「るんるんバルーン」や親子でプラモデルができる「三和プラモ工房」など、乳幼児から小学校低学年を中心に、幅広い年齢の子どもたちが楽しめる内容となっています！

参加ご希望の方は、お申し込み専用フォームよりお申込み下さい♪

事前申込の特典としてトランプとお楽しみ袋がもらえます！近隣の幼稚園や保育所、小学校にチラシを配布しています。みなさまのご参加を心からお待ちしています！



平成29年度キッズフェスティバル
「Go! Go! あまっこ隊～あまばへいざ出陣!～」
・日程：2017年10月21日(土) ・場所：園田学園女子大学
・受付時間：10:00～15:00 ・実施時間：10:30～16:00
・事前申込期間：10月2日(月)～10月19日(木) (当日受付による参加も可能)



申し込みはこちら!!

Newsletter

園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部 地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1 TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523 E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



2017年7月22日(土)、園田学園女子大学222教室においてシンポジウム「地域歴史遺産としての「営みの記憶」—災害復興の現場から—」が開催された。これは、大学COC+事業「歴史と文化」領域の一環として、地域にくらすひとびとの「営みの記憶」を見つめなおし、持続可能な地域社会システムを構築していくという趣旨で企画された。

まず、COC+事業の主幹校である神戸大学の奥村弘氏(神戸大学地域連携推進室室長)による挨拶があり、続いて本学の大江篤氏(人間教育学部児童教育学科教授)によるシンポジウム趣旨の説明が行われた。大江氏は、過疎化・少子高齢化が進行し生活様式が急激に変化していくなかで、地域で営まれた「人の暮らし」が消滅していく危機を指摘した。そのうえで、阪神淡路大震災や東日本大震災などの被災地で、復興を起点として地域の「営

みの記憶」を継承する試みがなされていることを述べ、地域社会の継承に歴史遺産が果たす役割を考えたいとした。

一人目の報告者、依木悟氏(成城大学文芸学部文化史学科准教授)からは、「失ったものからの発見と創造：災害復興に民俗調査を通して携わった経験から」として、東日本大震災被災地である岩手県大船渡市末崎町基石地区における調査報告があった。そのなかで、伝統的な祭礼や獅子舞踊りなどの民俗行事を、昔のまま伝承するだけでなく、新しく再生していく営みが重要と考えるようになったという。

二人目の報告者、松下正和氏(神戸大学地域連携室特命准教授)からは、「大規模自然災害時における被災歴史資料保全活動の現状と課題」として、2009年から発足した歴史資料ネットワークの実践について報告があった。

そして、歴史資料を地域の人々をふくめた社会で保全していくことにより、災害復興やまちづくりに活かすことを目指すという提言があった。

三人目の報告者、上相英之氏(国文学研究資料館客員研究員・本学非常勤講師)からは、「野に刻まれた災害の記憶：石造遺物の果たす役割について」として報告があった。石碑や墓石のような石造遺物は立地する場所に意味があり、記録された情報を読み解くことで地域の歴史的な生活を知る手がかりになると指摘された。

ディスカッションでは、地域に眠る歴史遺産の保全だけでなく、地域社会のなかで位置づけや次の世代に継承していく重要性が改めて様々な観点から論じられ、具体的な事例とともに議論が深まった。



つながりプロジェクトの様子

つながりプロジェクトは、学部や学科の垣根を越え、将来の夢が混在する21のチームを編成します。

いろいろな夢や目標を持った学生たちが協力しながら尼崎市にある21の課題へ挑戦します。チームは様々な社会の人と協働して課題の解決を目指します。学生たちが地域で学び、経験し、失敗と成功を重ねて出した答えは課題を解決する糸口となります。見つけ出した答えから社会へ企画、提言を行います。

社会では様々な職種とのつながりが必要となっています。この学科横断型の授業で他の学科のものの見方を学ぶことは将来に役立ちます。

このつながりプロジェクトでの経験を通して、地域に貢献できる人間力の強い女性を育成します。

『地域子育て支援』

つながりプロジェクト5 担当：児童教育学科 大江 篤



子育てや子育て支援の1つの方法として問題点を探るため、塚口周辺へ出かけて地域の危険な箇所についての調査を行いました。

『地域の学びプロデュース演習』

つながりプロジェクト9 担当：株式会社地域環境計画研究所 若狭健作



大学で学んだ内容を授業として2か月前から企画準備し、つながりプロジェクトから計4講座を開催。

『地元企業連携による 休眠知財活用アイデアの開発』

つながりプロジェクト17 担当：国文学研究資料館 上相英之



起業者訪問の様子。起業者：株式会社ふたごじてんしゃ代表取締役中原美智子氏。尼崎創業支援オフィス ABIzにて。

『地域における感染対策のための「手洗い講習会」』

つながりプロジェクト2 担当：人間看護学科 山本恭子



手洗い講習会では学生が主体となって地域の方々に講習します。

『地域日本語教育への提言 —ボランティア育成の実践と課題—』

つながりプロジェクト6 担当：人間健康学部 吉永 尚



日本語よみかき学級の「日本食を知る会」に参加させていただきました。日本食を通じて学習者の方達と楽しく交流できました。

『図書館探検隊 図書館革命』

つながりプロジェクト14 担当：同志社大学嘱託講師 久留島元



図書館の魅力を発信するプロジェクト。図書館とは違う方法を学ぶため、梅田で本屋めぐり。2017.08.12 丸善ジュンク堂梅田本店にて。

『みんなでつくる展覧会』

つながりプロジェクト20 担当：イラストレーター/絵本作家 松野和貴



アーティストの野原万里絵氏によるワークショップ「炭とパンで絵を描こう！」初めての技法と内容に学生たちはワイワイガヤガヤ!!



地域志向教育研究

健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について

本研究は、尼崎市内にある「食をとおしての健康づくりを推進している店舗」である“食の健康協力店”へ栄養に関する働きかけを行うことで、より店舗が活性化していくことを目的にして活動を行っている。

先行研究では尼崎市内の“食の健康協力店”のマッピングを行い、食をとおして健康を提供出来る基幹店を各行政区に定めアプローチを行ってきた。具体例として、店舗に出向き、事前に知り得た要望と各店舗の特徴を目視して、店舗で提供されている一押しメニューの食材を購

入後、秤で分量の測定と栄養価計算を行い、結果をもとにリーフレット作成と女子大生が考案した献立をキャンペーン期間中に提供して頂きました。

しかし、店舗ごとに各種の要因の差（客層の性別や年代や嗜好性や経営のポリシー）に違いあり、対応には苦闘いたしました。

店舗からの活動に対するアンケートによる評価は、どの店舗とも普通から少し満足という回答が得られました。

今年度の活動としては、昨年に引き続き①定番料理の栄養価計算やその料理のア

ピール用のリーフレット作成。②昨年度は、王将立花店で女子大生が考案したヘルシーメニューの提供が行えたので、更に他の領域の店舗と学生の協働によるメニューの提供を目指しています。③新たな試みとしてエマールでは日曜日に開催している「男性の料理教室」に担当の学生が参加し、そこで体験したことが将来指導者としての経験値を高める機会になりました。

最後に、この研究も5年目に入り、「無から形あるものへの挑戦」を目標にこの1年を乗り越えていきたいと考えています。

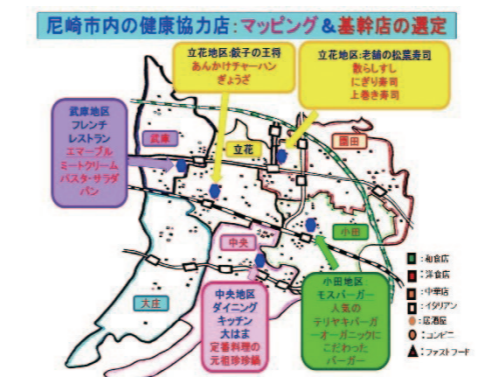


図1 尼崎市内の健康協力店のマッピングと基幹店の選出



図2 女子大生が考案した王将立花店での提供メニュー

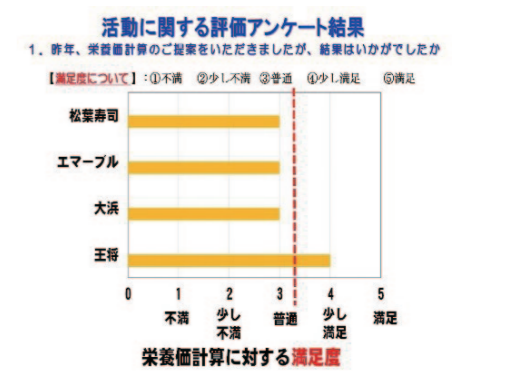


図3 店舗側からの活動に対する評価アンケート結果



Community Based Learning研究会

初年次教育と経験値教育

教育改革助成金によるCBL研究会が教務課主催で9月1日（金）ラーニング commonsにて開催されました。年間テーマ「笑育×経験値教育」で、今回のテーマ「初年次教育プログラムの開発」は、経験値教育プログラムの研究・開発でも重要と考え、CBL研究会に出席しました。

東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 佐藤智子先生がお越しになり、12名の出席者がありました。最初に、出席者の自己紹介と参加意図を質問され、次に大学の進学率や学生数の現状をパーセンテージで知るというアイスブレイクが行われました。

本題では、大学が置かれている現状、初年次教育についての概要、定義について学習し、96%の大学が「必要だ」として実施している、①レポート・論文の書き方、②プレゼンテーションなどの口頭発表、③教育資源（図書館を含む）の活用方法、④時間管理や学習習慣の習得、⑤論理的思考や問題発見、解決能力向上など、大学教育として最低限度必要とさ

れる学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・指向性、総合的な学習経験と創造的思考力）の詳細を事例に即してお話しいただきました。

その中で、この初年次教育を一步進められるのは、経験値教育ではないかと思ひ至りました。学生は同世代間とのコミュニケーションはとるが（それさえも危うい場合が少数ある）、異分野の大人とのコミュニケーションを避けることが多いようです。しかし、知らない人たちの中に入り、自分の立場を認識することは重要です。実社会に出た時の自分への想像、話し方、話すことができる知識を持つことは、就職活動期に必ず試されます。

初年次に地域社会へ出ることは、実習として社会に出た時に、成長の幅明らかに広がります。地域社会での経験値、実社会でのあり方を身につけておくことは資格取得、卒業単位のための体験や、実習先での技術の習得に留まらず、スムーズなコミュニケーションが、実習成果をより高めます。

最後に実習の成果を上げるためには汎用的技能が必要です。特にコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考、問題解決力は経験値教育が掲げる（自ら学ぶ力、気づく力、考え抜く力、コミュニケーション力、協働する力）に合致します。この経験値教育を教員が活用し、学生の学習への関心を高め、地域と学校のつながりを強化することは、本学のブランドとなります。

佐藤先生が学生の成長ポイントをどのように置き、どう評価するかが課題、とおっしゃったことは印象的でした。

